

# フードバンクを活用した食品ロス削減啓発事業

## フードバンク推進実行委員会

(特定非営利活動法人フードバンク福岡, 福岡市環境局事業系ごみ減量推進課)

### 1 共働のきっかけ・必要性

フードバンクは、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなった食品（いわゆる、「食品ロス」）を集め、食べ物を必要とする施設や団体へ無償配布する活動であり、食品ロス削減という環境的側面の問題と、福祉的側面の問題を同時に解決できる活動として期待されています。

#### (1) NPOが事業を提案した理由

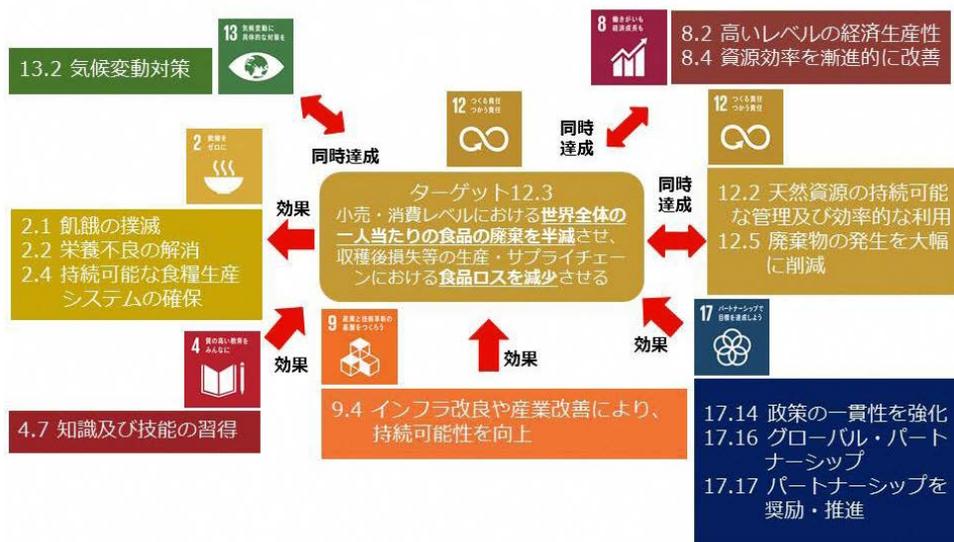
食品ロス削減は、SDGsのターゲットとしても挙げられる世界的課題であり、福岡市の課題でもあります。その一方で、食べ物を必要としている人たちが増え、特に子どもの相対的貧困は大きな社会課題となっています。

そうした中、フードバンクが注目を集めるようになりました。しかしながら、日本全体のフードバンクが取り扱う食品量は年間4000トンであり、日本の食品ロス全体量（年間643万トン※）の0.06%にしかすぎません。また、福岡市でのフードバンク活動は平成28年度に開始したばかりで間もなく認知度が低いいため、市民や市内企業への普及・啓発による活動の定着と拡大が必要です。

共働事業により、フードバンクを活用した食品ロス削減に前向きに取り組む事業者が増え、多種多様な食品の提供を受けることができるようになるとともに、市民意識の醸成にもつながりボランティア参加や企業からの寄付が得やすくなることが期待できます。

また、フードバンクが福岡市の循環型社会の一部として有効に機能することで福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができると考え、提案に至りました。

※農林水産省平成28年度推計



出典：農林水産省ホームページ ([http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku\\_loss/](http://www.maff.go.jp/j/shokusan/recycle/syoku_loss/))

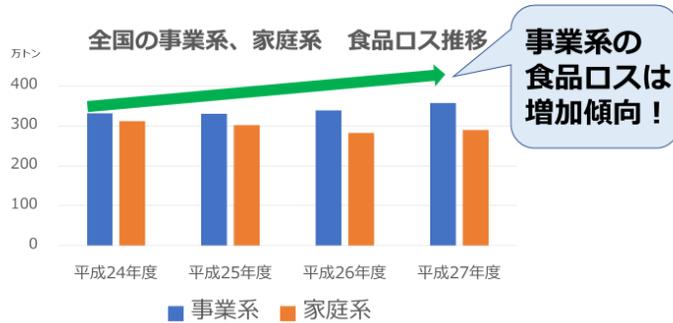
#### (2) 市担当課が事業に取り組む理由

福岡市において、事業系ごみの量は全体の半分を占め、その減量・リサイクルが重要な課題となっています。フードバンク活動の推進に取り組むことで、事業所から排出される食品ロスが削減できることを期待しています。

## 2 事業の目的

フードバンク活用による食品ロス削減は、環境問題だけでなく、様々な分野の問題を同時に解決し、効果を及ぼしあう重要な課題です。

そこで、全国的に家庭内で発生する食品ロスに比べ、減る傾向にない事業所で発生する食品ロスを対象に、フードバンクを活用した食品ロス削減による循環型社会づくりを推進することを目的としました。



農林水産省推計により作成

## 3 事業目標

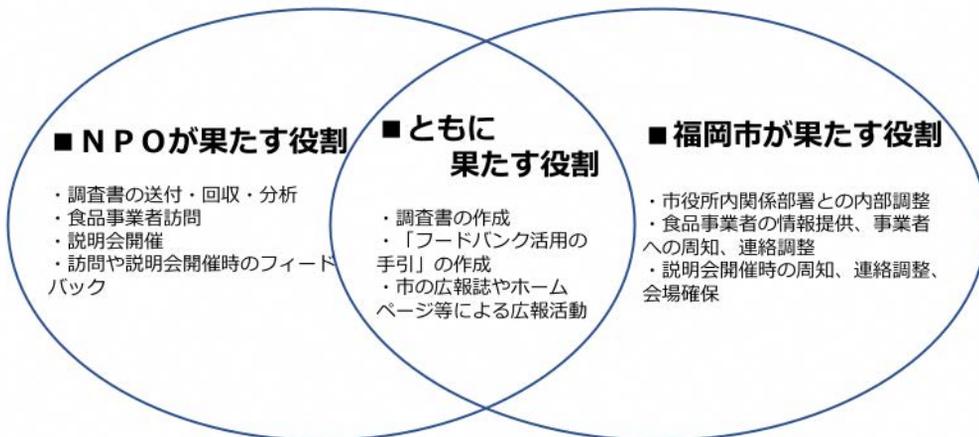
食品事業者を対象にフードバンク活用に関する調査・分析を行い、事業者の側に立った「活用の手引」を作成し、啓発を行うことによって、フードバンクを活用した食品ロス削減による循環型社会づくりを推進する。

本事業を通して、フードバンク福岡の食品取扱量増加及び、食品を提供する企業数の増加を目指します。

成果指標	平成29年度現状値	令和元年度目標値
食品ロス削減	44 t	80 t
食品寄贈企業数	60社	100社

## 4 役割分担

本事業では、ともに果たす役割を重視して、役割分担を作成しました。それは、互いの良いリソースを共有することによって、より良い解決方法を見出していきたいと考えたからです。



## 5 事業内容

### 事業内容（1）フードバンク活用に関するアンケート調査・分析

市内食品事業者を対象にフードバンク活用に関するアンケートを行い、フードバンクに対する疑問や食品ロスの発生状況などを調査・分析する。

#### ①アンケート作成

期 間：令和元年5月～6月に作成，7月上旬発送

調査対象数：2,000件（食品関連企業のうち，提供が期待できる製造業，卸売業などを中心に選定）

#### 調査内容：

アンケートは，フードバンクを知らない方でも回答できるような内容とし，さらに事業者のフードバンクに対する疑問を明らかとする質問としました。

フードバンクに食品を提供している企業の声や，受取団体の写真を掲載し，関心を高める工夫をしました。

アンケートのほか，「フードバンクが取り扱っている食品の例<食品企業様向け>」を同封しました。

アンケート回答数：191件（約1割回答）

アンケート送付の効果：アンケート送付によりフードバンク活動を知り，数件の企業から食品提供の申し出がありました。



送付したアンケート

**福岡市共働事業提案制度**

**フードバンクを活用した食品ロス削減に関するアンケート**

フードバンクは，品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できない食品（いわゆる、「食品ロス」）を集め，食べ物を必要とする施設や団体，個人に配布することによって，企業から出される“ごみ”の減量効果と福祉的な効果が期待されている活動になりますが，その活動内容や仕組みについては，まだよく知られていません。

そこで，本アンケートは，「福岡市」と「NPO 法人フードバンク福岡」が共働し，フードバンクの利用に関する食品関連事業者様の課題・現状を把握し，事業者様に役立つ「フードバンク活用の手引」を作成することを目的に実施しています。

なお，本アンケートで得た内容は，本事業以外の目的では使用いたしません。趣意をご理解いただき，ご回答をお願いいたします。

ご記入が終わりましたら，お手数ですが，同封の返信用封筒で  
**7月31日(水)までにご投函くださいますようお願い申し上げます。**



「アンケートに関するお問い合わせ」  
 特定非営利活動法人 フードバンク福岡  
 TEL：092-710-3205  
 FAX：092-710-3206  
 e-mail：fbfukuoka@gmail.com  
 営業時間：月・木・金の10時～16時



「共働事業に関するお問い合わせ」  
 福岡市 環境局 環境型社会推進部  
 事業系ごみ減量推進課 事業系ごみ企画係  
 TEL：092-711-4836  
 FAX：092-711-4823  
 e-mail：jigyokrigomi.EB@city.fukuoka.lg.jp

アンケート表紙

別紙

**フードバンク福岡が取り扱っている食品の例  
 <食品企業様向け>**

食品の種類	形態	温度帯
米	10、30キロ単位。古米は玄米がのましい	常温
肉・魚	1キロ以上	冷凍
卵、野菜・果物	段ボールやかごで、1箱～	弱冷蔵 常温
調味料(砂糖、みそ、しょうゆ、塩、たれ、ドレッシング など)	小分けされているもの、段ボール等で1箱～	常温
加工食品(惣菜、カレー、ジャム、スープ など)	レトルト、缶詰、フリーズドライ冷凍食品、瓶など、箱単位。	常温、冷凍
めん	乾麺、カップ麺、箱単位。	常温
飲料	ペットボトルなど小分けされているもので、箱単位。	常温
菓子	小分けされているものや、箱単位のもの。	常温、冷凍
パン	種類はさまざま、1箱以上	常温
ヨーグルト	カップなど、小分けしてあるものが箱単位	常温、冷蔵(要相談)
アイスクリーム	小分けしてあるものが箱単位。	冷凍

\*ここに記載していないものも、いただける場合があります。ぜひご相談ください。

フードバンク福岡に食品を受け取りに来る団体は、さまざまです。一団体当たりの量は少ないですが、食品を必要とする団体がどんどん増えています。用途に合った多様な食品が必要です。

例) 子ども食堂：1回に20人～100人分くらい目安。  
 米、調味料、冷凍肉・魚、加工食品(冷凍、レトルト、缶詰)、野菜、果物、お菓子、飲料 など

行政・社会福祉協議会：1週間程度食べられる量で1パッケージに  
 ・災害備蓄品などすぐに食べられるもの、長期間保存ができるもの  
 ・米、調味料、加工食品(レトルト・缶詰)、お菓子、飲料 など

福祉施設：30人～50人分くらいを目安  
 米、調味料、冷凍肉・魚、加工食品(冷凍、レトルト、缶詰)、野菜、果物、お菓子、飲料 など

\*食品を受け取りに来る団体数は、2019年5月現在で約100団体。例えば、1キロの冷凍食品を半分の50団体に配っても、1回の配布で500キロ(0.5トン)必要となります。皆様のご協力をお願いいたします。

ご相談・お問合せ先：特定非営利活動法人フードバンク福岡  
 TEL 092-710-3205 FAX 092-710-3206  
 e-mail fbfukuoka@gmail.com

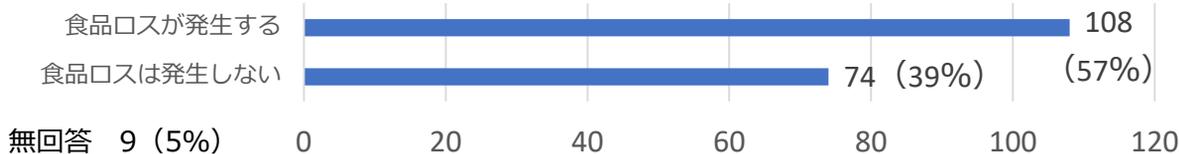
同封「フードバンクが取り扱っている食品の例」

## ②アンケート集計・分析

期間：令和元年7月～9月

### 【集計結果概要】（回答数：191）

#### ■現在の食品ロス発生状況

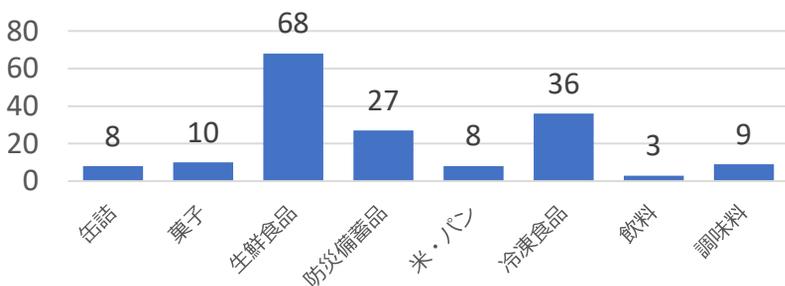


#### ■発生する食品ロスの種類（複数回答可）



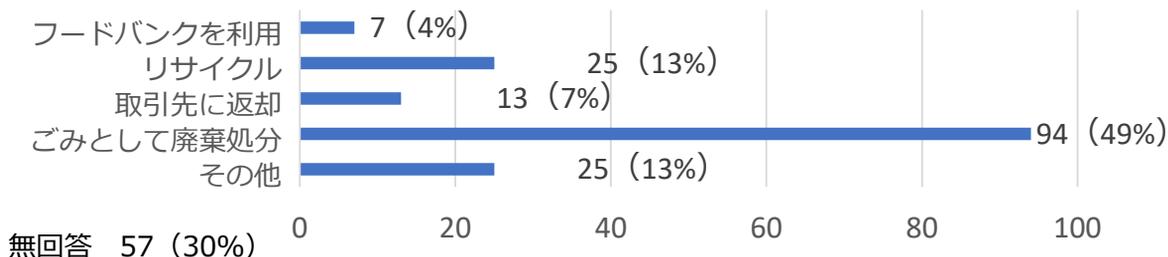
\* 過半数の企業で食品ロスが発生しています。  
\* 発生する食品ロスのその他には、冷凍食品、調味料、菓子、水産品、総菜などがありました。

#### ■フードバンク福岡が取り扱えないと思う食品（複数回答可）



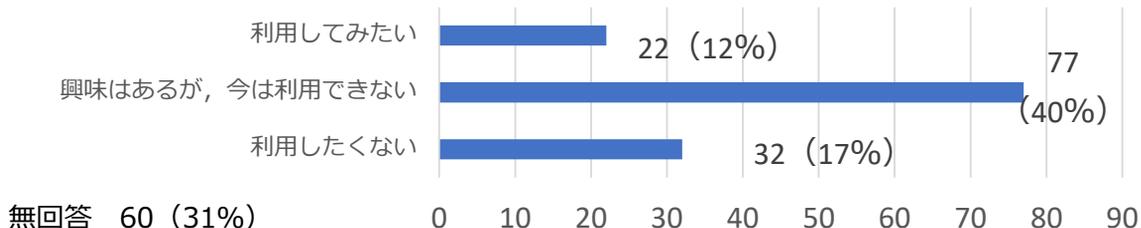
\* 「生鮮食品」が最も高く、続いて「冷凍食品」、「防災備蓄品」の順でした。

#### ■現在の食品ロス処分方法（複数回答可）



\* 「ごみとして廃棄処分」（49%）が最も多く、続いて「リサイクル」（13%）とその他（13%）が同数でした。「フードバンクを利用」している事業所は約4%とごくわずかでした。

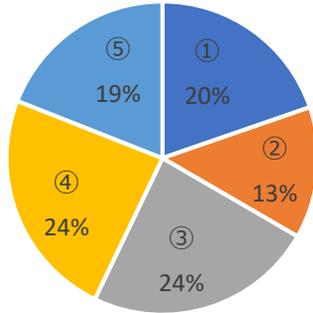
#### ■今後のフードバンク利用の可能性



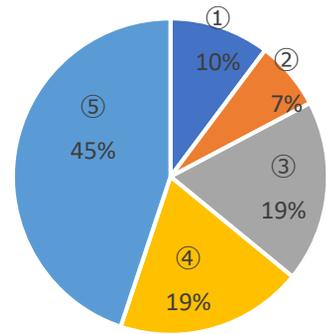
\* 「興味はあるが、今は利用できない」（40%）が最も高く、「利用したくない」（17%）を合わせると過半数となりました。「利用してみたい」は12%でした。

## ■フードバンクを利用できない理由、利用する際の不安の程度の把握

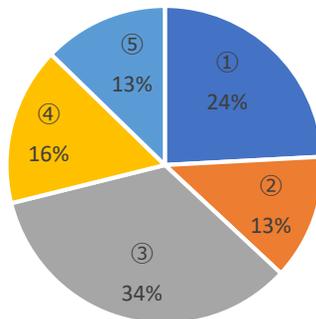
●フードバンクのしくみや内容がよくわからない



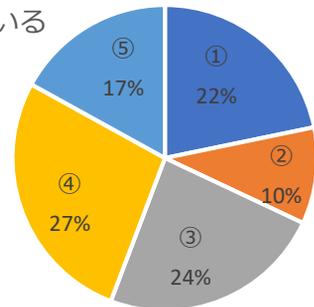
●フードバンクへの提供に適した食品ロスがない



●フードバンクを利用するメリットを感じない



●社内で食品ロス提供に対応する職員が不足している



### 選択肢

①まったくあてはまらない ②あてはまらない ③どちらでもない ④あてはまる ⑤もっともあてはまる

### <その他（自由記載）>

- ・ロスの発生量が少ない。
- ・ロスの発生にむらがあり、安定して確保できない。
- ・不定期で出せない
- ・人手不足で配送までできない。
- ・賞味期限が近いチルド商品が中心であり、不定期に発生する余剰品をフードバンクとの間で誰が調整するのか。

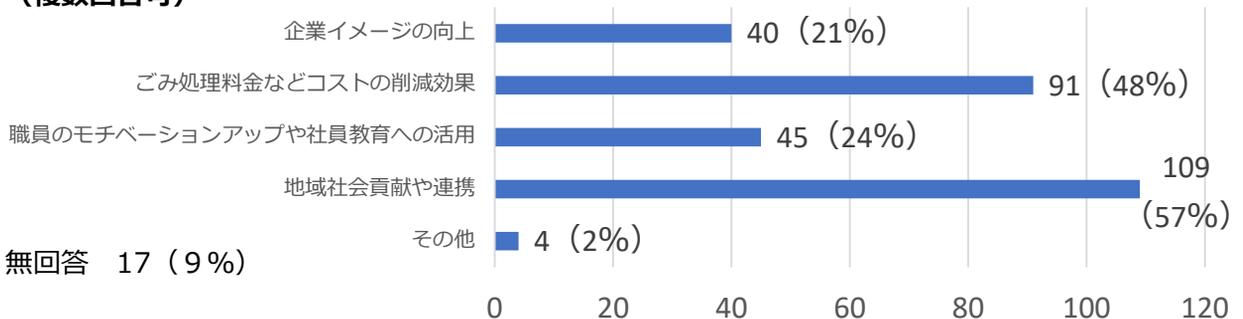
\* フードバンクのしくみや内容がよくわからない：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計43%でした。

\* フードバンクへの提供に適した食品ロスがない：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計64%でした。

\* フードバンクを利用するメリットを感じない：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計29%でした。

\* 社内で食品ロス提供に対応する職員が不足している：「あてはまる」と「もっともあてはまる」は合計44%でした。

## ■フードバンク利用に際しての期待（複数回答可）



\* 「地域社会貢献や連携」(57%) が最も高く、続いて「ごみ処理料金などのコストの削減効果」(48%) が高かった。

## 【アンケート調査・分析結果】

### ●フードバンクのしくみを周知啓発する必要性

アンケート調査から、まだフードバンク活動そのものがよく知られておらず、ごみとして廃棄されている食品が多い現状が把握できました。

一方で、フードバンクに興味はあるものの、今は利用できないと感じている企業が多くありました。その理由は多岐にわたりますが、最も重視すべきことは、フードバンクのしくみや内容が十分に知られていないということだと分かりました。また、企業内の問題として「フードバンクを利用するメリットを感じない」、「社内で食品ロスの提供に対応する職員が不足している」がありました。つまり、フードバンクのしくみや内容がよく知ってもらおうと同時に、それぞれの企業の課題を解消する必要があります。従って、本年度作成する「フードバンク活用の手引」では、フードバンクの仕組みを伝えることに重点を置いて作成します。また、企業がフードバンクを利用するためには、企業の課題を解消する必要があります。

### ●フードバンクの提供に適した食品ロス

フードバンクに適した食品がないと回答している企業が多く、自由記載欄からは、「少量」や「不定期」などの理由で提供できないとの回答がありました。しかしながら、現在フードバンク福岡では、突発的に生じた食品ロス（台風等での配達不能など）や、年に数回生じる食品ロス（お中元・お歳暮）、生産中止になった食品、季節食品、生産ロットの問題から生じる余剰食品の定期的な提供などを受けています。こうしたことから、「手引き」の中でいただける食品や量、種類、頻度などを説明するとともに、企業側の誤解を調査していく必要があります。

また、「賞味期限」が近い食品について、現状のオペレーションでは受取が難しい面もあり、様々な食品の受け取りを可能とするため、受取・配布オペレーションの改善について検討していく必要があります。

### ●フードバンクへの期待

企業はフードバンクの利用による地域社会貢献への期待が高く、今後フードバンク活動を進めていくための、強い原動力になると考えました。また、フードバンク利用によるごみ処理料金等のコスト削減への期待も高く、企業が負担感なくフードバンクへ提供できる方法を企業ヒアリングを通して調査していく必要があります。

## 事業内容（2）「フードバンク活用の手引」の作成

アンケート調査・分析の結果を用いて「手引」を作成。

期 間：令和元年10月～令和元年12月

内容案：食品企業向け手引

- ・フードバンクの仕組み
- ・どのようなところに配布しているのか
- ・食品の管理や注意していること
- ・食品衛生管理基準や、トレーサビリティシステム、商品チェック項目、フードテロ対策など
- ・合意書～責任の所在について
- ・Q & A

目 標：12月初旬完成、12月中旬企業へ発送

## 事業内容（3）「フードバンク活用の手引」を利用した説明会の開催

期 間：令和2年1月～令和2年3月

目 標：1～2月説明会開催。その後、企業訪問。

## 6 担当者の声・市民の声

（1）市民の声（アンケート結果から抜粋）

- ・非常に良い取り組みだと考えています。もっと広めてほしいです。
- ・フードバンクの活動と利用は大賛成です。今後さらに活動の範囲、利用の企業が増えますことを祈ります。

## (2) 担当者の声

- ・事業を進めるうち、食品ロス削減推進法が可決され、フードバンク活動がしやすくなってきました。そうした背景も、市担当者から知ることができました。
- ・アンケート調査の自由記載欄にフードバンク活動への励ましのコメントをいただき、応援してくださる方々がいらっしゃることを実感しました。
- ・共働事業開始から間もないものの、アンケートや市担当者の企業訪問の際の意見などを総合的に分析し、フードバンクが活用されるための課題が明確となってきました。

## 7 令和2年度への展開

アンケート調査で明らかのように、食品関連企業がフードバンクを利用するためには、企業の課題を解消する必要があります。また、食品ロスを取り巻く状況が変化しており、食品ロス削減法等の影響を受けて、企業の発生抑制などにより、1社あたりの提供量が減少している一方で、受取団体は増加傾向にあります。そのうえ、食品提供の時期や種類も偏りがあるため、需給バランスを保つことが難しくなっています。

これらの実態を踏まえ、令和2年度以降は計画を修正し、以下のとおり実施していく。

### ■令和2年度（2年目の主な取組内容）

新規食品提供企業の拡大とそれに関する課題の把握を行う。

①食品提供量の定量確保のため、企業に対してヒアリングや説明会を実施し、新規開拓や継続提供促進を図るとともに、②食品受取団体の需要（量・種類など）や、スムーズな受け渡しを目指したアンケート調査を行い、受取に関するオペレーションの点検を行います。①、②により把握した課題を整理し、効果的なフードバンク活動普及啓発のための③アクション・プラン作成に向けた分析を行います。

\*アクション・プランは、食品提供企業の新規開拓や継続提供促進をはかるため、普及・啓発の方法や広報戦略、広報媒体・方法について、フードバンクが実施する具体的な行動計画です。

### ■令和3年度（3年目）の主な取組内容

受取団体の様子を伝える啓発資材を企業へ送付し、その反応を調査。前年度からの調査検討結果と併せて、円滑な食品受け渡しのオペレーションマニュアル見直しと、安定的な食品確保に向けたアクション・プランの作成。

#### （共働の必要性）

- ・福岡市から企業の情報・現状や法令等の情報を受け取りながら、全体の進行をすることができると。
- ・福岡市と共働による調査であることから、企業の担当者だけでなく、企業全体で取り組む課題として認識されやすくなる。
- ・福岡市の課題でもある食品ロス削減を推進することができる。